株式会社 木風

KOFU

ランドスケープ
作品集

2020.Nov

Landscape survey, planning and design

株式会社

木風

木風では、調査からデザイン・設計までワンストップで対応できます。
調査結果を十分に反映し、環境に配慮した地に足のついたデザイン・設計は木風の強みです。

Team Members

後藤 瑞穂（樹木医）

樹木調査全般、ランドスケープ・プランニング・デザイン・基本設計

石川 啓吾（技術士 環境部門）

環境調査全般、測量、ランドスケープ・プランニング、基本設計

安達 直子（登録ランドスケープアーキテクト）

植物調査、毎木調査、ランドスケープデザイン、基本・実施設計

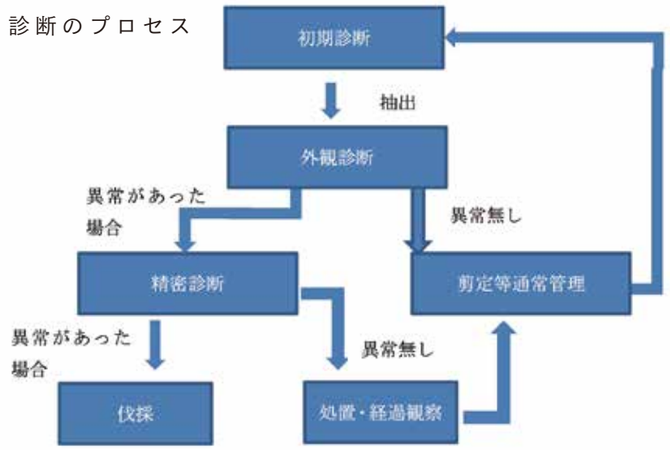
Landscape Survey & Planning

調査・計画策定

Site：葛飾地区テーダマツ維持管理計画

ＵＲ都市機構所有の土地を宅地分譲するにあたって、その土地に生育していたアメリカ産のテーダマツの並木を地域資源として保全活用するための調査と整備。
つくば市の公園として管理されるテーダマツ生育箇所の保全の為の健全度調査と整備、管理マニュアルの作成を行った。テーダマツは１本１本外観診断を行い、その中でも内部の腐朽が懸念される樹木についてはピカス音波測定器による精密診断を行った。高所作業車に乗り、実際に不要な枝をマーキングして剪定し、きめ細やかな整備を行い、外国産の高木でも安心して管理できる指針、マニュアル作りで、他にはない高級感のある分譲宅地ができたと自負している。

診断のプロセス



高所作業車を使用した診断の様子→

実施年：2016

外観診断及びピカスによる精密腐朽診断例A141

当該地区では2009年に後藤樹木医による外観診断及び精密腐朽診断が行われており、樹木の健康状態が明らかになっている。既存のデータに加え、新たに診断することにより、今後の樹勢の推移を予測でき、更新木の適切な選定が可能である。ピカスのデータは熟練の技術者による解析が不可欠で、現在は最新機器に更新されており、より精密な診断が可能となっている。

ソメイヨシノ（染井吉野、学名: Cerasus × yedoensis (Matsum.) A.V.Vassil. 'Somei-yoshino'）とはエドヒガン系の桜と日本固有種のオオシマザクラの交配で生まれた日本産の園芸品種である。ソメイヨシノはほぼ全てクローンである。
その為、病害虫への抵抗性が弱く、接ぎ木で生育している為、台木の腐朽菌を最初から保有しているので腐朽しやすく樹齢は土壌や光環境に左右されるところが大きい樹種である。
サクラ並木空間の維持更新には、腐朽を抑制させる処置などの樹木そのものへの対処と、土壌改良などの環境整備も必須である。
最適な更新計画には、サクラ類の現状の健康状態を精密に把握し、1．更新木の選定、2．温存木の樹勢回復措置、3．土壌等環境整備、4．将来予測を行い更新計画の作成、5．追加植栽の計画、の総合的な取り組みが必要とされる。

1．更新木の選定の為のサクラの樹勢診断
左記にある外観診断と精密診断を全樹木に行い、更新木の適切な選定を行う。ピカス腐朽診断機では、腐朽の進行度合いもわかる為同じ腐朽でも緊急性のあるものを判別しやすく、細かに対応策を立てることができる。例えば腐朽率が35%でも、初期腐朽が大きく進行形の場合はあえて更新対称とし、早めに植え替えをするなどの措置ができる。ピカス計測器による診断では、単に腐朽と言うだけでなくどのような腐朽なのかがわかり対処がしやすい。サクラ並木を維持しつつリフレッシュし、継続性のある更新計画とするため診断結果をリスト化する。

2．3．温存樹木の樹勢回復措置と土壌等環境整備
樹木の樹勢回復には土壌改良がとても重要である。
樹木は根から養水分を吸収するため、根の生育が樹勢に直接影響している。土壌は樹木にとっての栄養源であり、生育場所であるため、科学的な改善と物理的な改善が必要である。適切な土壌改良には土壌の検査が必要だが、長谷川式検土のみならず、広い空間がある当該地区では土壌断面を作り、より詳細に診断することが可能であるため推奨する。

a．科学的改善：土壌分析に基づき、根の活動域への適切な栄養分を補う必要がある。アルカリ性また酸性土壌なのかを判断し、サクラの好む土壌への転換が必要である。浅根性のサクラに適した深さでの施肥、土壌改良を行う。特に物理性を改善することにもつながる土壌灌注による液肥は大きな効果が得られる。さらに腐朽を抑制、土壌殺菌するためのアルカリ電子機能水の散布も効果的である。

b．物理的改善：樹木にとって、土壌の改善は物理性を改善する方が大きい。根は光合成と逆で呼吸をしており、酸素を必要とする。微生物の活性化にも酸素が必要である。その為、通気透水性を高めることが最も効果がある。できる限りの範囲で面的な土壌改良を行い、1本1本への筒形土壌改良材の設置で樹勢は大きく回復する。腐朽している場合は、健全材の成長が重要であるため必須の措置である。

樹形の崩れたイチョウ。維持が困難となっているなら、サクラに植えかえるのも一案。

4．5．将来予測を行い管理マニュアルの作成と追加植栽の計画
樹木を更新させるにあたり、枝の伸びの管理も重要である。サクラは剪定に弱いので、大枝をぶつ切りすると腐朽してしまい、枝折れの危険性が増してしまう。樹形づくりは樹木が若く枝が細いうちに行うのが望ましく、老木についても新枝が出るよう樹勢回復が重要である。その為、診断カルテを元に各樹木の将来初速を行うことでより望ましい更新計画が立案できる。さらに、当該地区をよりサクラの団地として楽しむために、時期をずらして開花するサトザクラを植栽し、花期を長く楽しめるようにする。

参考：土壌の劣化と物理環境の悪化例
土壌が固結し、通気透水性が悪化している。土壌の養分も枯渇し、樹勢回復や継続的な生育には不適である。

筒形土壌改良材なら狭な土地でも設置が可能である。
施工も簡単で費用対効果が高い。

参考：大枝のブツ切り
美観も悪く危険

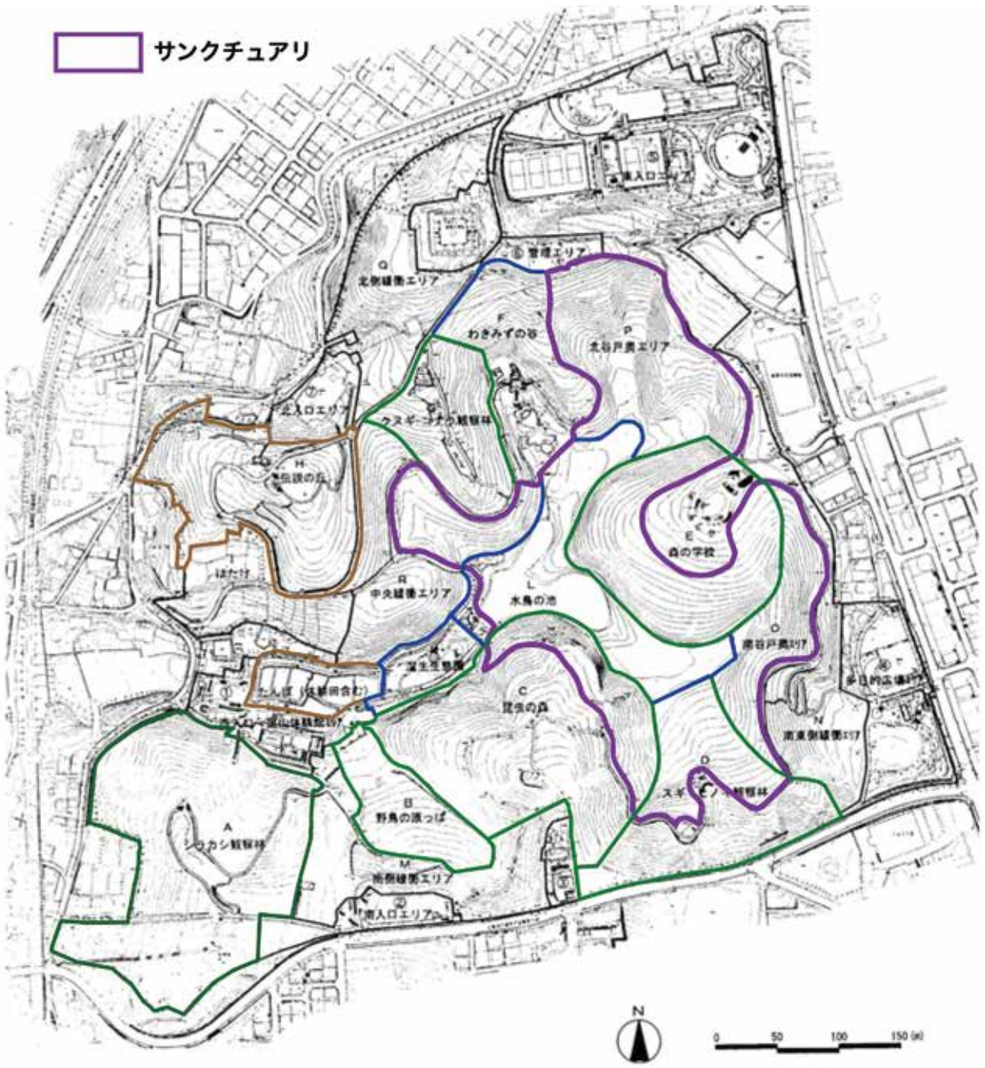
サトザクラ類
病害虫に強く
華やか

実施年：2017

Site：神奈川県座間市、座間谷戸山公園自然環境調査

都市化の著しい神奈川県・県央地域にあって、相模川の河岸段丘に残された貴重な谷戸の自然環境保全に対し、「地域の歴史・文化を背景とした里山の企業な緑や多彩な動植物を保全しながら自然観察が楽しめ、さらに里山の環境を体験できる公園」を整備方針として整備された全国初の「自然生態観察公園」。
平成５年に一部開園し、平成14年にフルオープンとなった。
整備にあたって、平成13年に自然環境調査を実施。この調査結果を元に、環境拠点や環境スポットの特性と生き物の生息・生育環境面及び公園利用面からエリア区分がなされ、計画、設計業務、維持管理計画の基礎となっている。

↓エリア区分図（座間谷戸山公園自然公園 HP より）



現存植生図
（同公園自然公園 HP より）

樹林現況図
（同公園自然公園 HPより）

公園内には、現存植生図に示す通り、多様な植生に応じた動植物が生息・生育している。また、樹林環境は、 大きく３つの樹林から構成されている。
公園エリアの潜在植生はシラカシであり、自然遷移に任せるとシラカシ林になってしまう。よって、一部シラカシ林のエリアとしつつも、適宜人の手が加わって維持されるクヌギ－コナラの雑木林やスギ・ヒノキが中心の針広混交林、草丈の違う原っぱ、湧水近くの湿性植物生態園、田んぼエリアなど様々な種類のゾーンを設けることにより多様な生物が生息する環境が創出された（左図）。
このような多くの種類の生物に配慮するには一律的な管理は難しく、各々のゾーンごとに管理目標を決め、作業を行い、フィードバックしていくという循環型管理を管理者及びボランティアとともに実施されている。

←写真
県立座間富山公園HPより抜粋
http://www.zamayatoyama.kanagawa-park.or.jp

実施年：2001

Site：鎌倉市内の樹林地内のカフェ景観アップ調査・計画

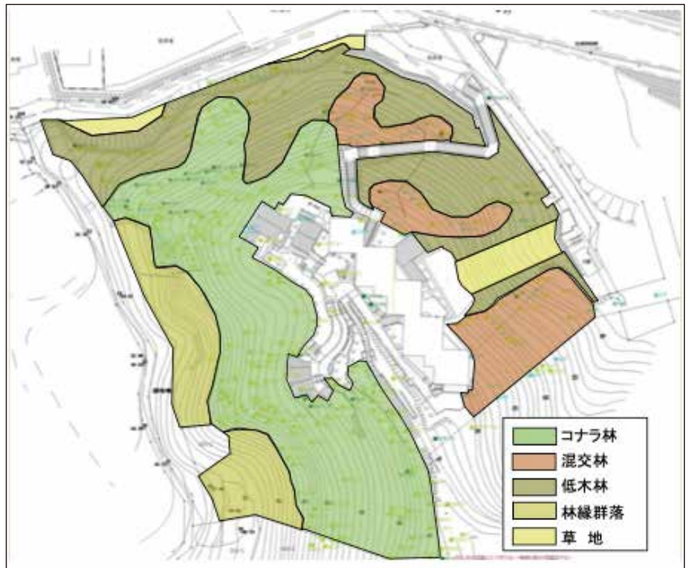
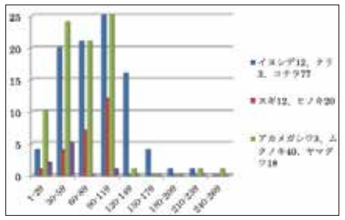
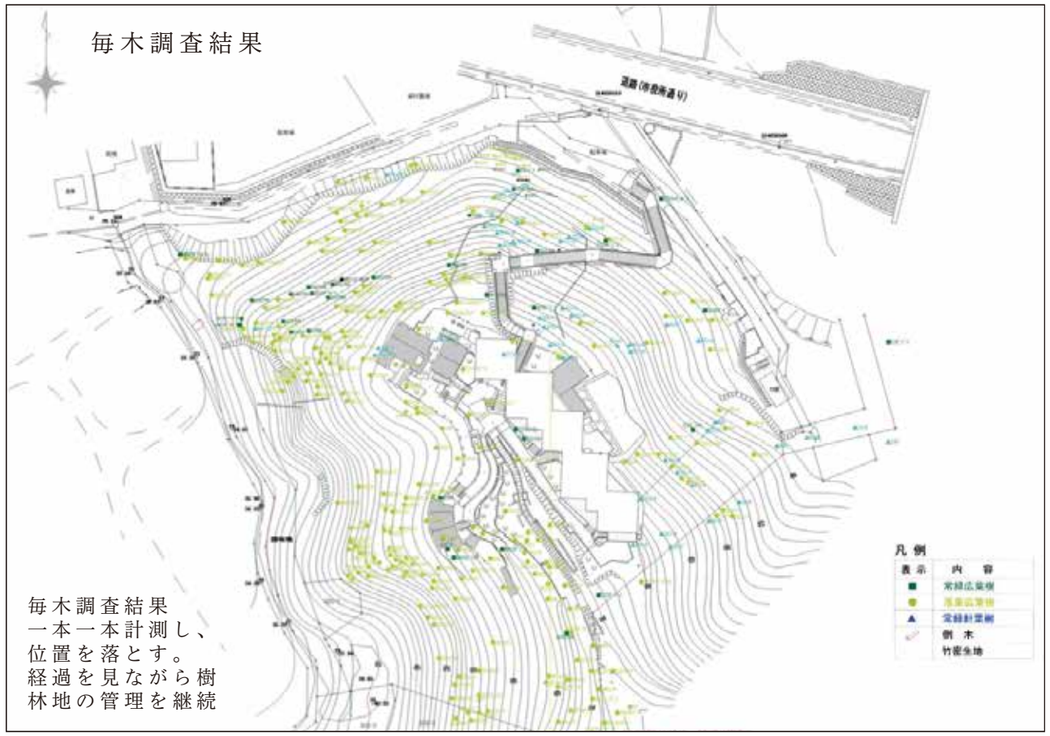


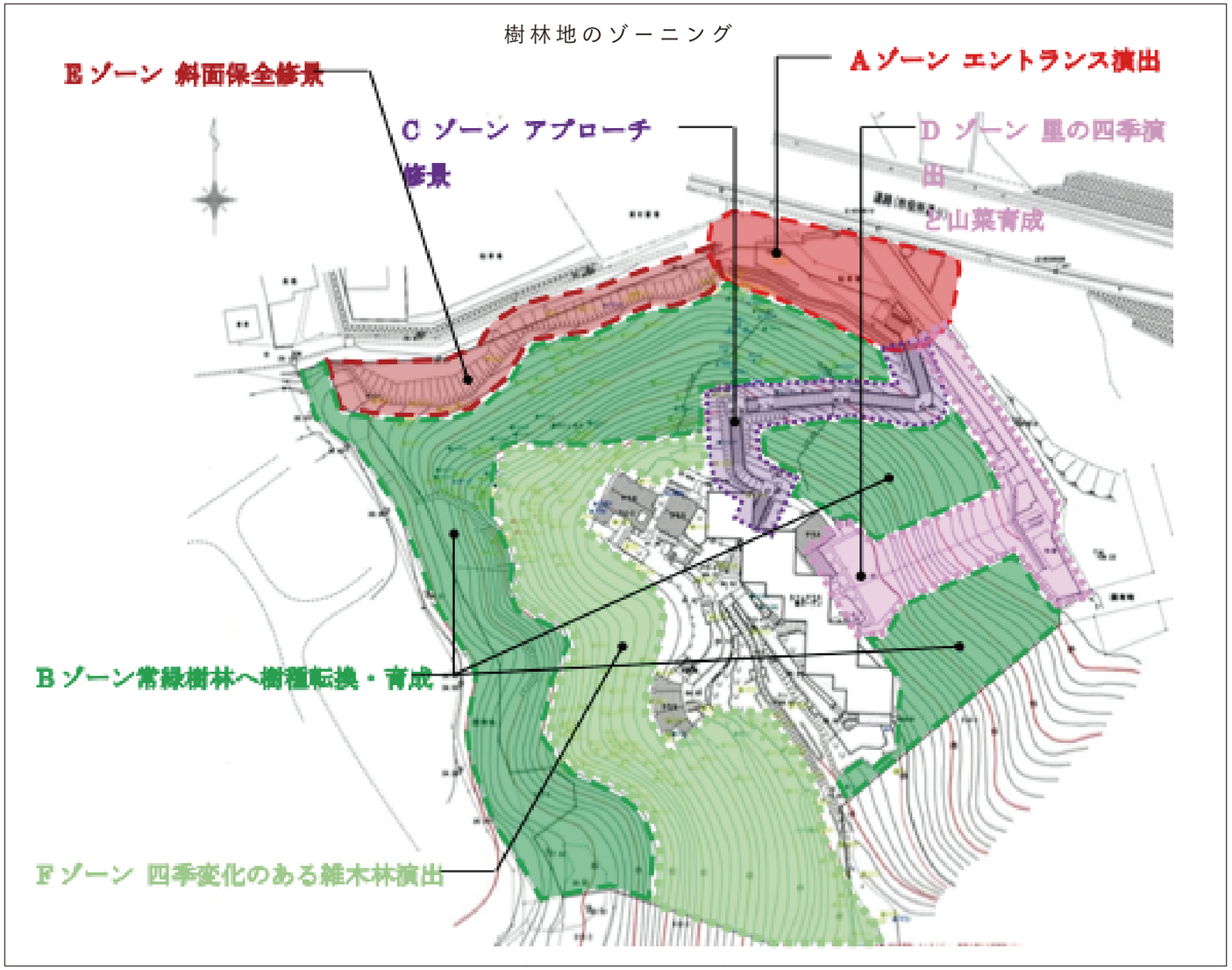
図 2-2　計画地の現存植生図



樹林地内の毎木調査と、植生調査を行い、この結果を踏まえて、ゾーニングを設定した（右図）。



毎木調査結果
一本一本計測し、
位置を落とす。
経過を見ながら樹
林地の管理を継続



計画策定時の様子。その後、樹林地の管理を行っている。
2019 年はナラ枯れの発生によりコナラが一部枯れ、台風による倒木など対処すべきことが多かった。

実施年：2012（維持管理継続中）

Landscape Planning & Design

計画策定・デザイン

黒岳山麓ホッペ村構想

大分県大分郡庄内町阿蘇野

ホッペ村開村

基本コンセプト

雄大な黒岳を背景にしたこの阿蘇野の土地に、アーティストたちが何年もかかわってきました。これまでの活動と，これからの活動をもっと沢山の人たちと共有できるような施設作りを提案します。

この施設は，黒岳の自然に倣ってデザインされています。綺麗な水が沸き起こり，川の流れを作り、人里へと流れていく。また、植生は同じく黒岳をお手本にします。山頂の植生から民家の廻りの木々へと、移り行く様をこの村で再現する事で、自然の恵みを感じ、学習が出来るようになっています。

また、現在進行中の「こやプロジェクト」を展開し、それらの小屋に宿泊も可能です。物産館には地域で取れた新鮮な野菜、味噌など地域の特産物を販売し、地域産業の活性化につながるようになっています。村内にも農場を用意してありますので、体験農業もできます。

集会所では、アーティストや、様々な人たちによるパフォーマンスを企画し、地域住民との交流を深めるようにします。

さらに，村内はすべてユニバーサル対応になっており、(図内→)スロープと段差のない舗装で、ベビーカーや車椅子ものかたも安心して訪れる事が出来ます。

この村をつくることで、アートを軸にした多くの活動の可能性が開かれていくことを願っています。

実施年：1999

水源ゾーン

村内の一番敷地が高いゾーンには、水が湧き出るようにします。
この水は飲料可とし、宿泊者や、観光客が汲んで利用できるようになっています。
こんこんと澄んだ水が流れ出る様は、黒岳の湧水を思わせます。
ここで湧き出た水は村内を川となって流れ、豊かな生態系を作り出します。

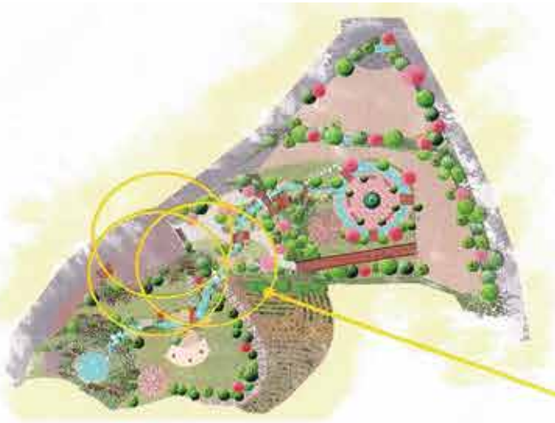
植栽計画

このゾーンは村内で最も高い場所に位置しています。
よって、その植栽も黒岳の高地を倣い、計画します。
山頂帯は主に、ノリウツギ低木林、ミヤマキリシマ群落、タンナサワフタギ・ノガリヤス群落などからなっています。

主な樹種

ノリウツギ、ベニドウダン、ミヤマキリシマ、ヤシャブシ、
シモツケ、ヤブウツギ、イタドリ、リョウブ、ヤブアジサイ、
シャクナゲ、ミツバツツジ、クロモジ、アオダモ、など。

実施年：1999



物産館ゾーン

阿蘇野で採れた新鮮な野菜、畜産物、さまざまな工芸品など、地域の特産物を販売します。
また、農村ならではの加工品などの講習会を開くこともできます。都市への物品交流の窓口。
また、ホッペ村の事務所棟でもあります。

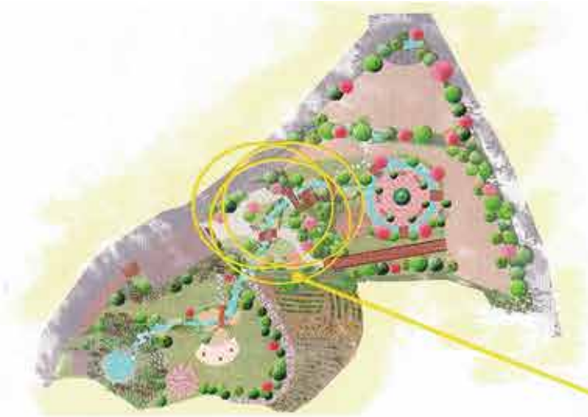
植栽計画

物産館周りの人々が集う場所には常緑広葉樹林と里山の二次林を中心に。
法面やその他の部分には針･広混交樹林の、阿蘇野地区の原野を思わせる植栽とする。、

主な樹種

モミ、カヤ、アセビ、コナラ、ヤマフジ、モミジ、ヤナギ、コマユミ、エゴノキ、ノリウツギ、ヤマザクラ、ヤブツバキ、シラカシ、クスノキ、イチイガシ、モチノキ、アラカシ、タブノキ、タラヨウ、カクレミノ、テイカガスラ、ムクノキなど。

実施年：1999



滝

集会所から上の敷地にある物産館との間には滝を設けます。
人工につくるわけですが、限りなく自然に近づけるよう配慮します。
水源からずっと多自然型工法で川の流れを作っていきます。
車椅子やベビーカー以外の人は、滝正面の木製階段を利用できます。
また、石を伝って沢登りも楽しめます。

植栽計画

集会所と同じゾーンですが、やや山地の特徴を強くします。主に谷間を形成する樹種で構成していきます。オヒョウ林群、ケヤキ林群、を中心にコナラ林、エゴノキ・ノリウツギ林、水際の低木を配植します。

主な樹種

オヒョウ、アサガラ、チドリノキ、バイカウツギ、ミズメ、ミズキ、ヤマボウシ、イタヤカエデ、コナラケヤキ、エゴノキ、ハナイカダ、ヤマザクラ、イロハモミジ、など。

実施年：1999

宿泊・小屋プロジェクトゾーン

ここでは、現在進行中の小屋プロジェクトを展開していきます。アーティストたちによる興味深い小屋の数々が、続々建設されていく予定です。
さらに、それらの小屋には宿泊することができます。ゾーン内には炊事棟を用意してありますので物産館で仕入れた新鮮な食材をすぐに調理して楽しめます。
ここは、宿泊ゾーンでありながら常設の展覧会場でもあるのです。

植栽計画

水源に次ぐこのゾーンでは、ブナ帯と言われる落葉広葉樹林が発達した山岳の風景を作ります。
また、岩なども大きく、水源にはそれら岩を伝って登るようになっています。

主な樹種

ブナ、アオダモ、ツリバナ、ケクロモジ、ミツバツツジ、クマシデ、イヌシデ、ミズナラ、リョウブ、ノリウツギ、シシガシラ、アセビ、ミヤマキリシマ、ナナカマド、ベニドウダン、ヤマアジサイ、コハウチワカエデ、ウリハダカエデ、アオハダなど。

実施年：1999

集会所・イベントゾーン

村内の色々な会議や催しを行えるスペース。
集会所の周りにも水の流れを作りこの村を象徴するようなデザインとします。ケヤキをシンボルツリーに、ベンチのそばにも木陰を作るようにします。雨天時にはテントの設営も可能です。
もちろんユニバーサル対応になっており、このゾーンから上の敷地へは、集会所奥のウッドスロープを使ってもらえます。

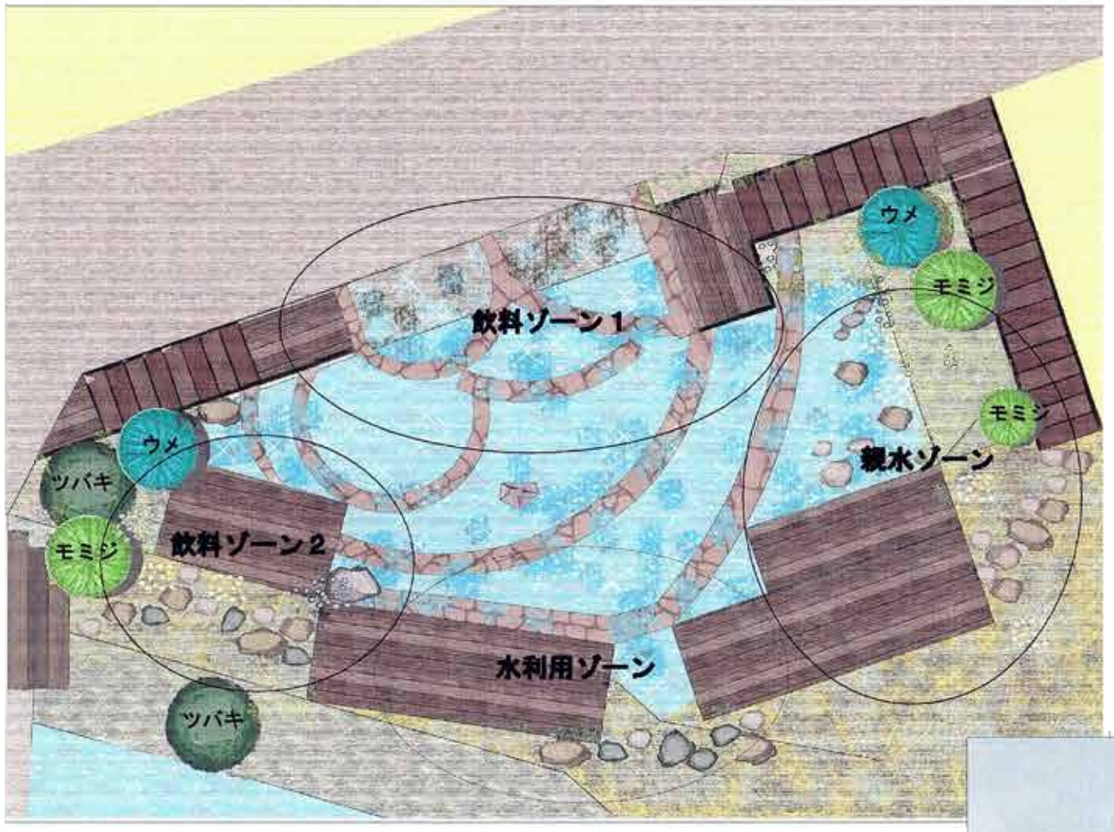
植栽計画

人里のイメージを持つこのゾーンでは、シイ、カシ、タブ林といわれる常緑広葉樹林を中心に計画します。
また、鎮守の森などの人類文化と共存してきた里山の二次林も再現します。

主な樹種

アカガシ、イヌシデ、ウラジロガシ、サカキ、イヌガヤ、シラカシ、クスノキ、イチイガシ、クロガネモチ、ヤマザクラ、タラヨウ、エゴノキ、ナワシログミ、ヤブツバキ、ヤブニッケイ、アオキ、シロダモ、モチノキ、カクレミノ、ヤブラン、テイカカズラなど。

実施年：1999



植栽計画

現況には、梅の古木が植わっているので、それをそのまま活かす計画にします。
梅の木をもう１本増やし、もみじ、を添えて、紅葉も楽しめるようにします。
また、椿の木もそのまま活かし、なるべく、無駄のないよう配植します。
低木、下草には、萩やドウダンツツジ、湿地や水地に適性な植物を植えます。
ショウブ、シュロガヤツリ、トラノオや、クリンソウで、花も楽しめる場所になるよう計画します。

この水源は、水を地域の人が実際に利用することと、町外から訪れた人たちも楽しめるようなデザインになっています。
飲み水から、野菜や洗い物の利用、浅瀬に石を配して、子供たちが遊べる空間も計画し、意匠性と実用性を兼ね備えるようにします。

実施年：1995

Landscape Scheme & Detail Design

基本・実施設計

公有地

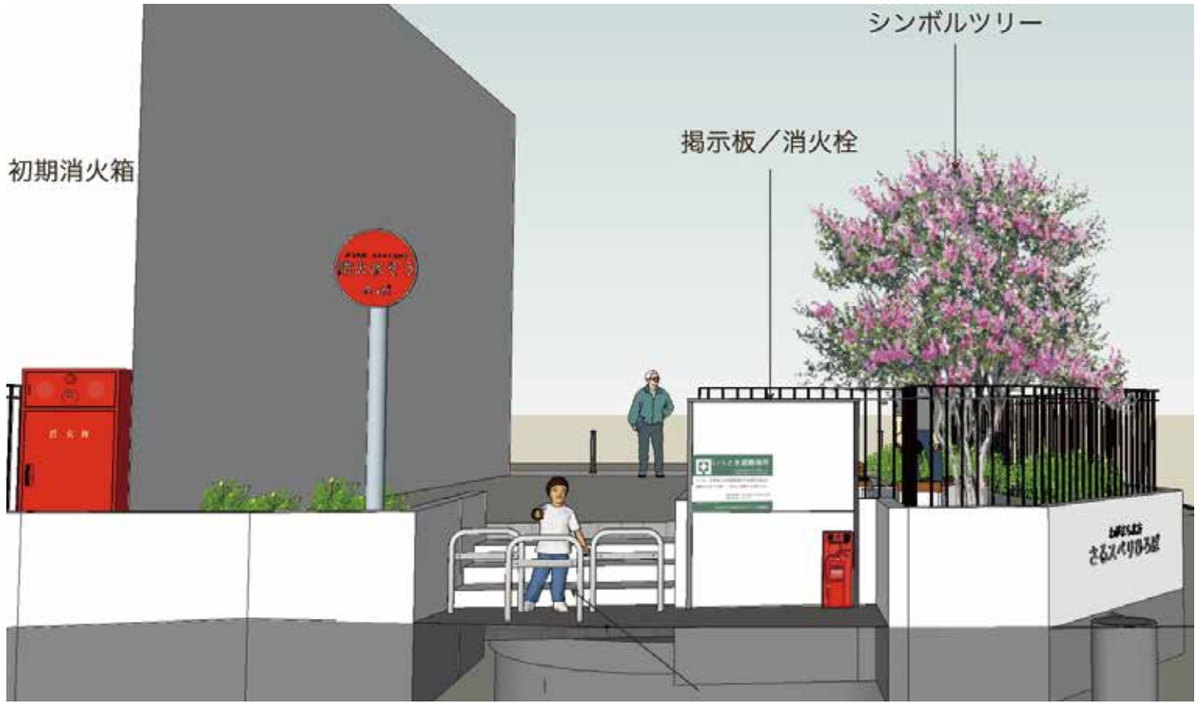
公共・特殊法人：公園・広場設計

Site：【左】横浜市中区、新設街区公園　基本設計
【右】新設防災広場　基本・実施設計

元々、企業の社宅として利用されていた土地を市が購入し、新設の街区公園として整備した公園。横浜市らしい地形で高低差が約8mある。地域住民が参加するワークショップを3回程度開催。その結果を踏まえて基本設計を行った。
アクセス路は、つづら折りのスロープにするか階段とするかで議論が分かれたが、最終的に階段の方がショートカットであるということで階段に落ち着いた。
「ゲートボールができる広場」「防災時に活用しやすい施設」「トイレ」「季節感の溢れる植栽」「子供の遊び場」。。。その他にも多くの要望が寄せられた。トイレの設置は最後まで意見が分かれたが、住民同士で管理の方法の合意が図れたことから最終的に設置された。遊具の一つである滑り台は高低差を利用したもので、住民からのアイディアを形にしたものである。
下の写真はオープン時のニュースレーターから抜粋。

※トイレは、設置の有無、設置位置、規模等について検討中で、決定事項ではありません。

現場は元々公園が1箇所もない木造住宅密集市街地であることから、100m2と小さい広場であるが、貴重なオープンスペースとなっている。
既存の町内会館が耐震基準を満たしていなかったことから、建て替えが計画され、それの外構という形で、防災広場が設置された。
よって、小さいスペースに、かまどベンチや井戸、マンホールトイレが所狭しと設置されている。地下には防火水槽も設置されているため、地上部だけではなく、地下スペースも狭小である。
補助金を利用して建設されており、町内会館は町の持ち物であるが、広場は横浜市の所有となっている。住民ワークショップからコンセプト、及び実施設計まで手掛けた。左図、下図は住民ワークショップで書いたスケッチ。



実施年：2010（左）、2016（右）

Site：横浜市中区、総合公園改修にあたっての実施設計業務

当該公園は、スプリングフェアが毎春開催される。その際、樹林下全面にチューリップが植栽される。

チューリップ植栽が映えることと併せて、シーティングスペースとなるように公園内の勾配がある箇所（図面※印）の箇所に円形の多段土留めをデザインした。上写真は工事前、下写真は工事後。

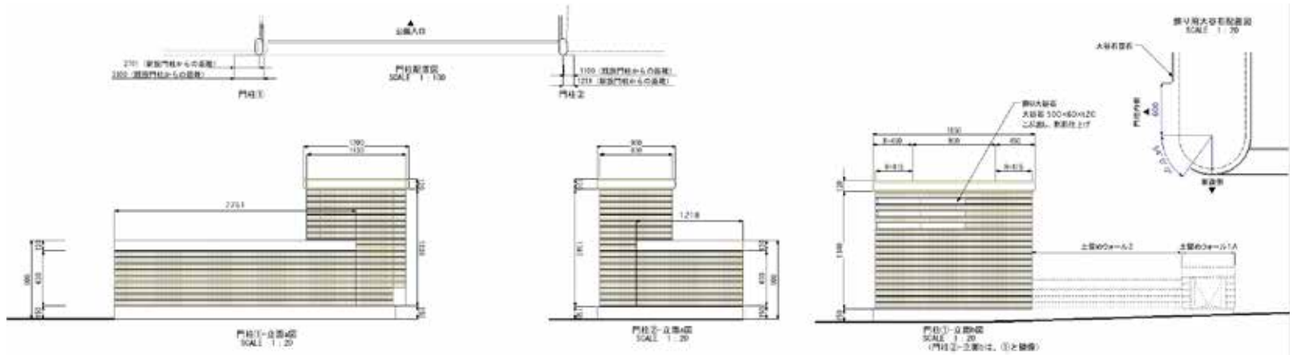
←下写真参照：
https://www.city.yokohama.lg.jp/naka/kusei/koho/churippu_tsushin/2014tulip.html

駅の近くのオフィス街に立地する公園。
通過交通も多く、ランチや休憩などの利用も多い。しかし元々の舗装は土を締め固めただけなので、雨天など歩きにくかった。

大きな改修案件は、新規の舗装工事。勾配のある大きな面積を舗装することから、アスファルト舗装の中でも自然に見える脱色アスファルトを提案。施設の前は大型車両が通過することから密粒黒アスファルトとした。上図は舗装のピッチを検討した時のもの。

また公園内に花木がなかったため、サクラ（ヨコハマヒザクラ）を提案した。上図、左図はその位置を検討した時のスケッチ。

関東大震災後の復興事業で再建された公園。縦溝のスクラッチタイルは当時の面影を残す。実測をして再現（右図）。



実施年：2009-2010

Site：【左】熊本県菊水市庁舎屋上庭園設計・施工
【右】大分県山香町シンボルパーク設計・施工

菊水町を流れる菊池川を砂利で意匠した現代和風庭園。
土留めとベンチを兼ねた自然石の植栽桝によって、くつろげる空間。
見る庭と集う庭を融合させることにより、外来者への広報と、町民の利用による生きた庭園。

農業と林業、畜産など、自然豊かな町の庁舎前を修景。
生命力を感じ、訪れた人たちの憩いの場となるよう意匠した。

実施年：1997（左）、1996（右）

Landscape Scheme & Detail Design

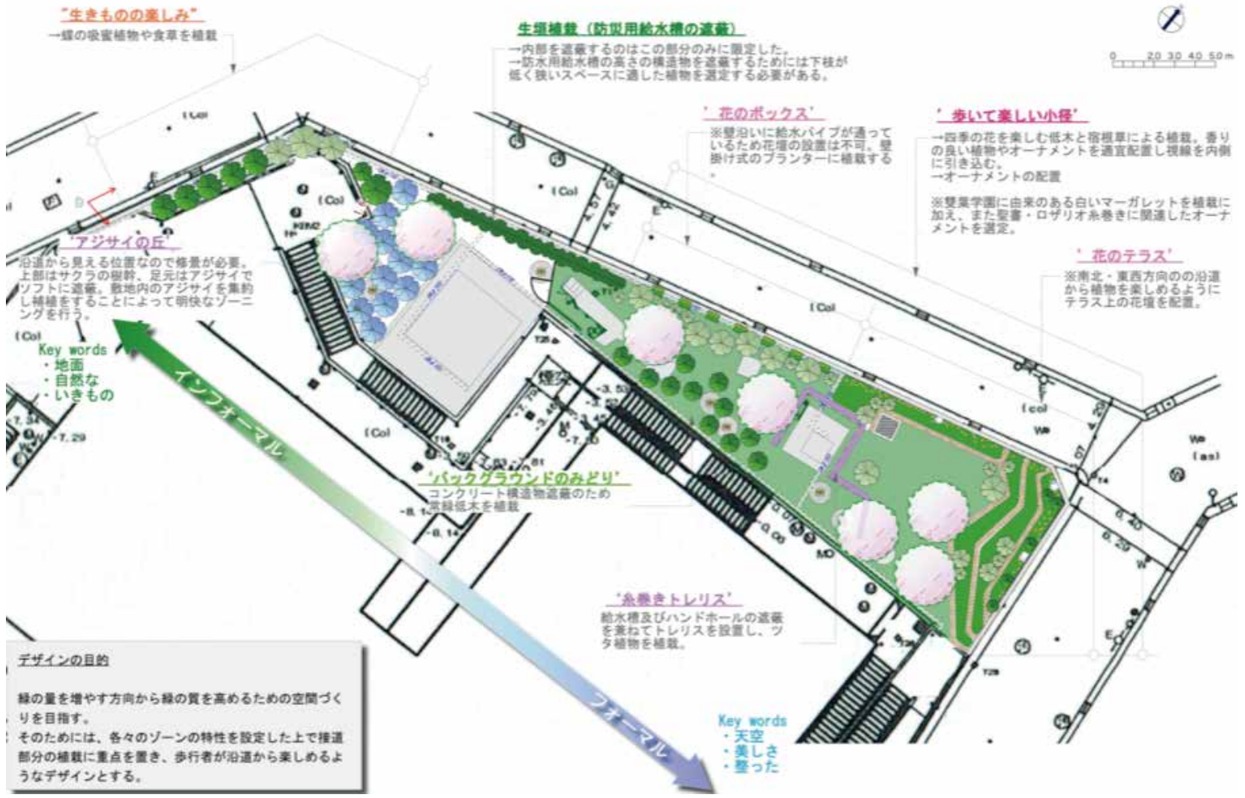
基本・実施設計

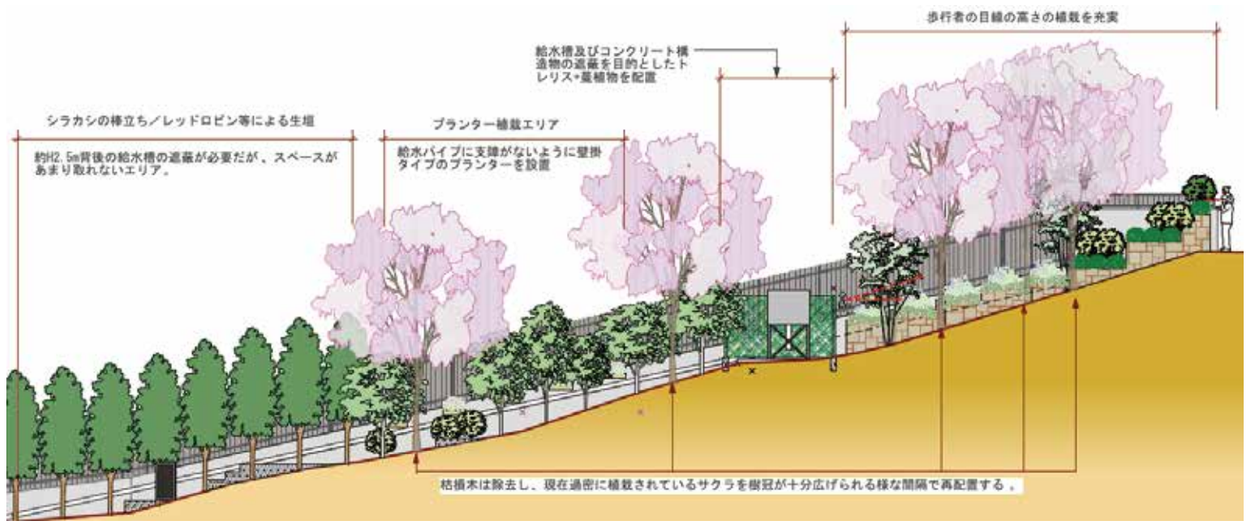
民有地の公共空間

民間：外構デザイン

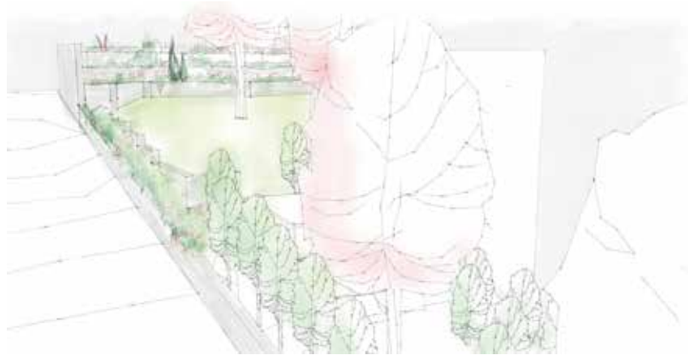
Site：東京都大田区の私立女子校のバックヤード改修のためのデザイン・設計

昨年、高木が枯損して倒木したことを契機に、現状では設備と高木が散在する定義されていない空間を整え、今後管理しやすく、歩行者が楽しめる空間に転換することが目的。サクラが数本植栽されているが、いずれも密に配置されており、大きくなる前に移植が必要という状況であった。左下の断面からも分かるように、傾斜地であることからこれを活かした多段の花壇をデザインした。
重機が入らない敷地のため、抜根や現場打ちコンクリート敷設等、人力で困難な工事内容を避けてデザインとなった。

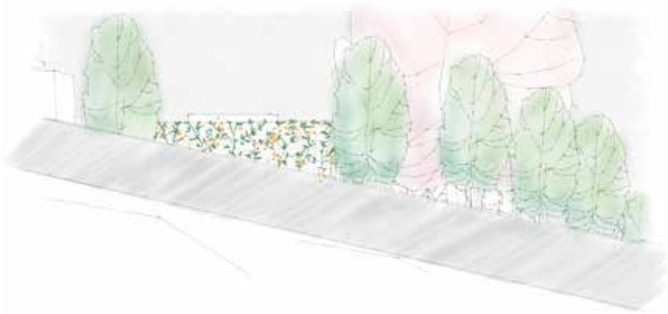




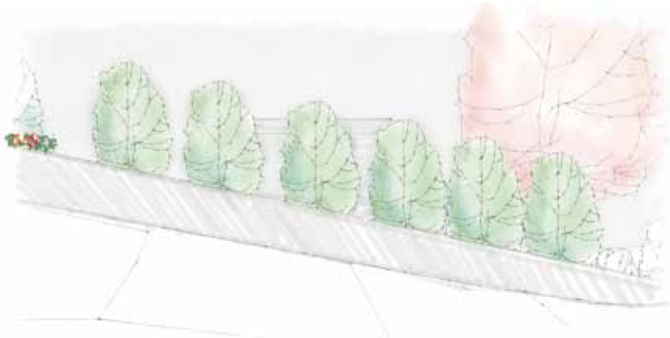
左）トウネズミモチ（要注意外来）
右）枯損コナラを伐採の上、花壇を設置する。



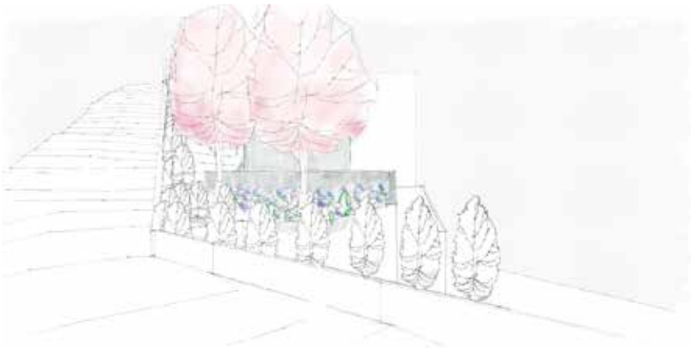
縦格子柵から見た風景。設備（防火水槽）が目立つため、目隠しとしてトレリスを全面に設置。



もう一つの防火水槽の前には目隠しとしてイボタノキが植栽されているものの、下枝が上がり足元が見えている奥の高木も窮屈。



斜面は敷地内のアジサイを移植・補植し、アジサイの丘として定義づける。

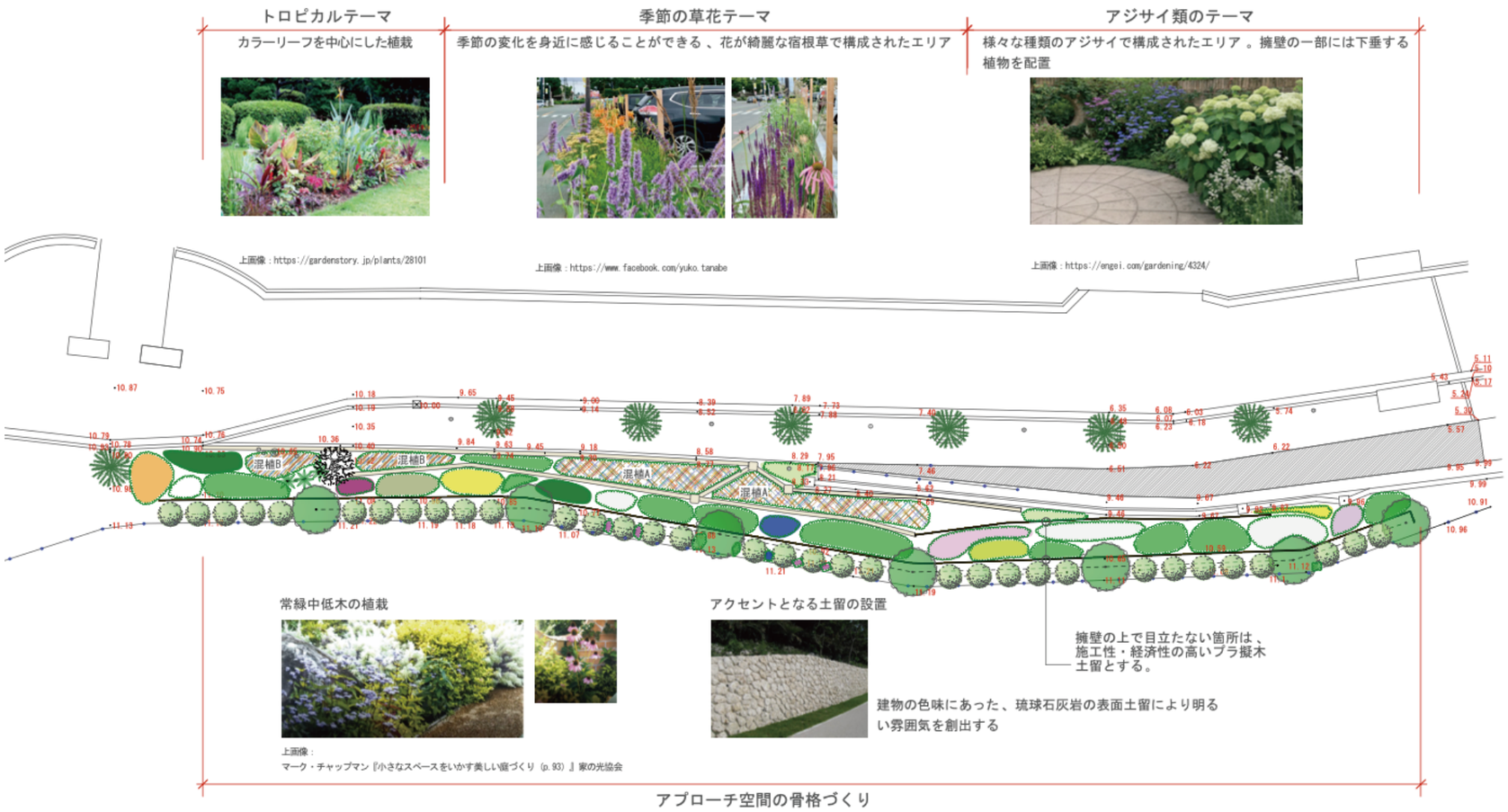


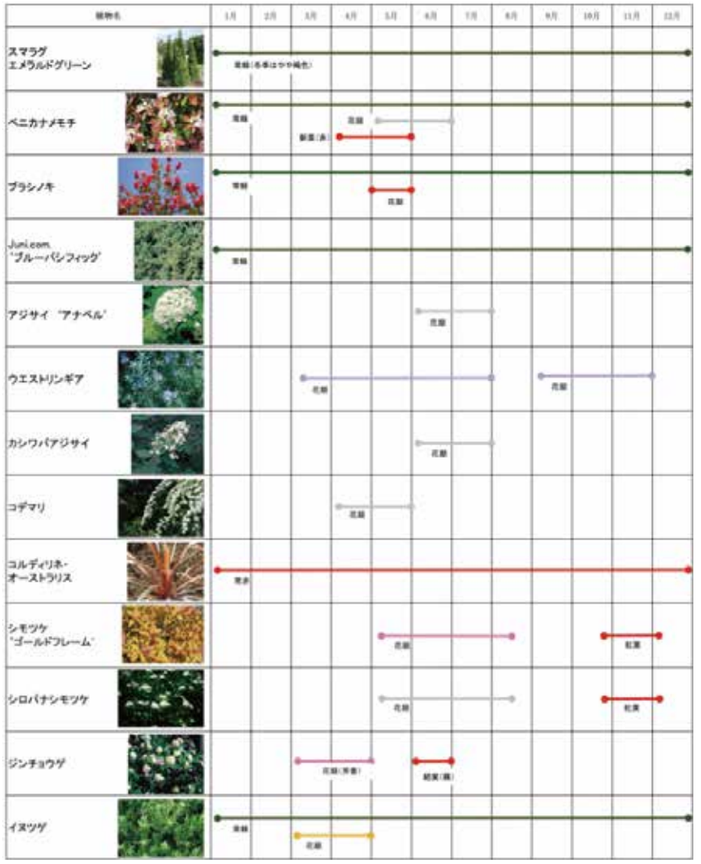
実施年：2020

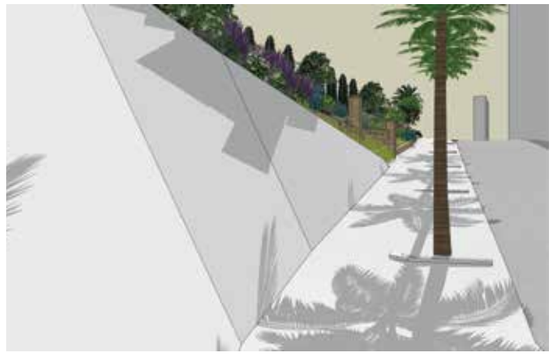
民間発注・外構デザイン

Site：横浜市栄区、マンション外構デザイン・設計

横浜市の南部の土壌は、固結度の高い泥岩であることが多く、そのため既存の駅とマンションの境界沿いの目隠し高木の生育が悪かった（右中写真）。台風で倒木もあったことから、全面的な改修工事が予定された。改修にあたっては、土留を整備した上で盛土・土壌改良を行い、低木・地被などを中心とした植栽をデザインした。低木・地被は季節を通して楽しめるように工夫した。管理手間がかからないように地被類は全て宿根草とした。



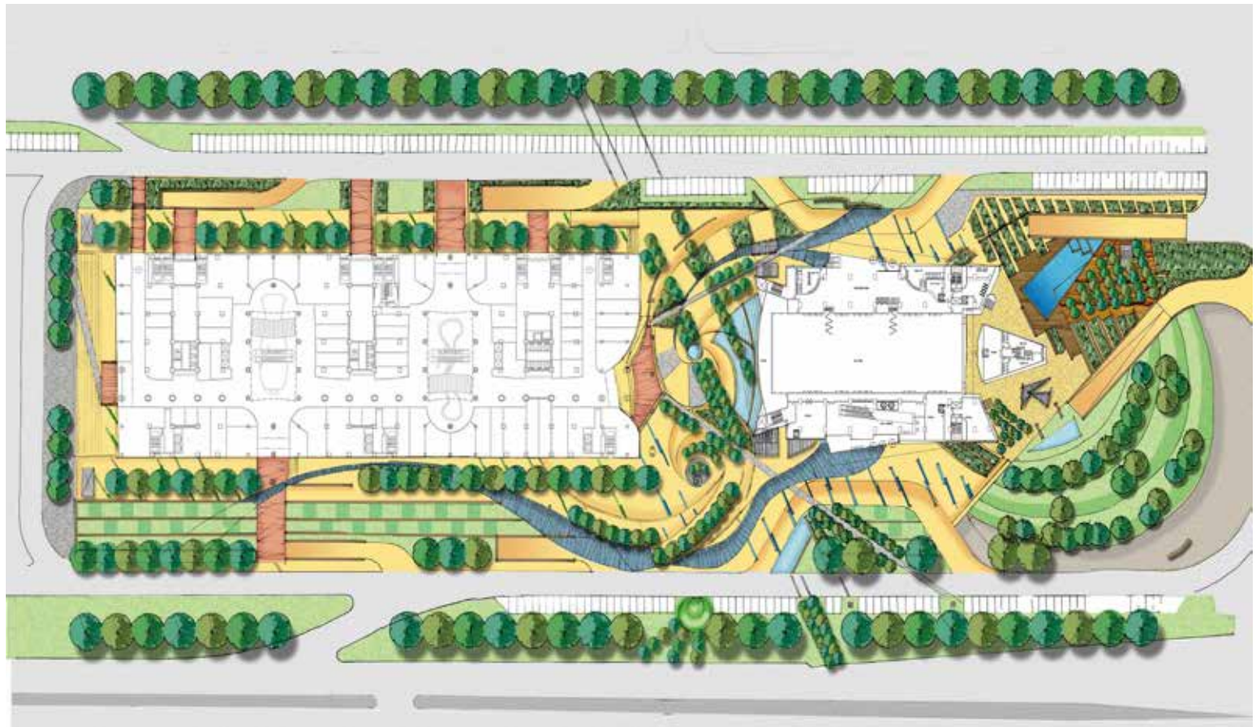


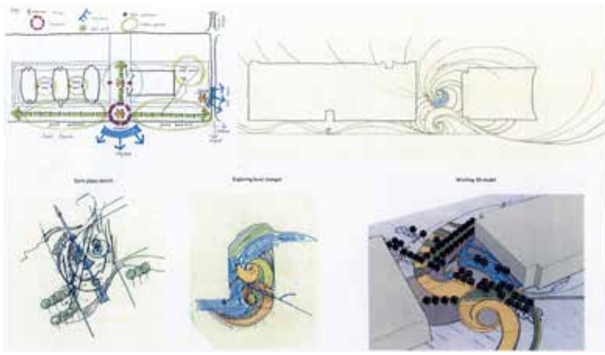


実施年：2020

民間：外構デザイン

Site：【左上】インドネシア、【下】パキスタン、【右上】タイ
リゾートコンプレックスマスタープラン





インドネシアの案件は、コンパスをイメージしている。タイランドの案件は建築物が蘭の花であったため、水に浮かぶ花弁をランドスケープで表現した。右下は天を衝く建築物の足元を曲線で繋ぐデザインとした。いずれもコンセプトデザインまでの仕事で、実施設計は現地事務所が行った。

海外設計事務所にいた時に携わったプロジェクト。いずれもリゾートホテルコンプレックスであり、コンセプチュアルな建築物にヒューマンタッチのランドスケープを作り出すことを目的としている。

実施年：2004（左上）、2005（右上）、2006（下）

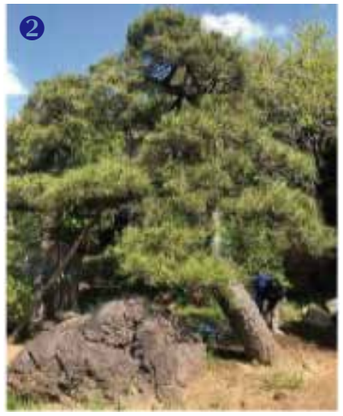
Private Garden Design

個人邸庭園デザイン

民間：個人宅

Site：埼玉県さいたま市、住宅の建て替えに伴う庭の再整備のためのデザイン・設計（2020）

和風邸宅を洋風に建て替えるにあたっての、庭のデザインと設計。
和風庭園であったことから、幹周の大きな高木、及び景石が多数存在した。これらを活かしつつも、建築物に合うようにモダンにデザインすることが命題の一つであった。平面図の円番号はパースの円番号に対応しており、既存木を示している（パースに反映していない残置する既存木もある）。残置する樹木に関しては、事前に健康状態を調査し、且つ施肥や筒形土壌改良剤などの設置を行った。新しく導入する樹木に関しては、施主様が好んでいるアカマツとシラカンバを計画し、これらの樹木にあった景観の創出に努めた。アカマツに関しては生産者を訪れ材料検査を実施し、樹形の良いものを施主様と一緒に選んだ。
パースの左列の３枚はエントランス周辺のアカマツの庭、中列上のパース２枚は和風庭園である。

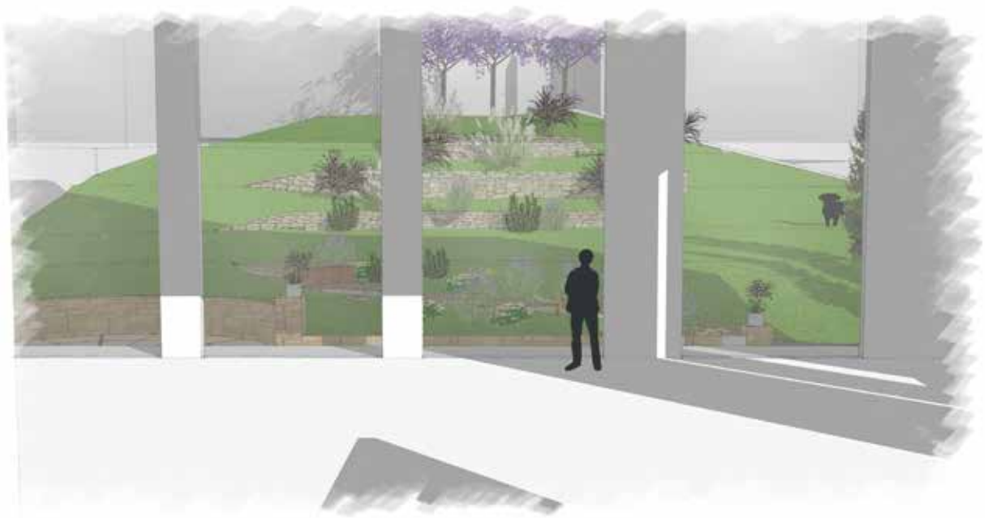


（上）施主様の趣味のゴルフの練習できる芝生のスペース。
（中）デッキ沿いはシラカンバを配置し、足元にはヤマツツジを植栽し、自然風の仕立てとした。
（下）既存の桜の周りは日当たりがよくないため、舗装し休憩スペースとした。

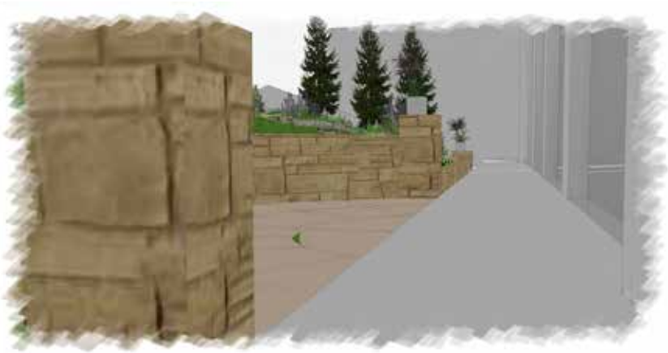
実施年：2020

民間発注：個人宅

Site：横浜市南区、住宅の建て替えに伴う庭の再整備のためのデザイン・設計



横浜市内の個人宅。
横浜市らしい高低差のある地形。施主様にはビジネスで多忙であることからメンテナンスに時間を割けず、且つ虫が苦手で、さらにペットの犬が遊べる空間をつくりたいというご希望があった。
これを踏まえ、斜面の中段あたりで切土し、土留めを設置、広いスペースを作るように造成することを提案。植栽は水みちが出来やすい構造物の周辺のみとし、残りは人工芝とした。植栽する植物は、花がつくものを避け、オーナメンタルグラスや、シダ類、常緑の低木、除虫菊などの虫が忌避するような植物を



実施年：2020

民間：個人宅

Site：熊本県荒尾市個人邸　Y 邸　庭園デザイン・設計

↑
バラアーチにキウイを絡ませて、収穫の楽しみを味わえる工夫をした。

↑平面図
→３Ｄパース

ウッディな建築物に合わせたナチュラルでカントリーなイメージに、というご希望で枕木を活用した外構デザインに。キウイをバラアーチに仕立てたり、ブルーベーリーを植栽して収穫の楽しみのあるガーデンデザイン。

実施年：2002

Site：熊本県玉名市個人邸　N 邸　庭園デザイン・設計

母屋と新築の間をつなぐアプローチ兼外構デザイン。スペインからの輸入タイルを使って色むらのある風情がにじみ出る仕上がりに。お子様たちの遊び馬、お年を召したご両親さまが安心して歩けるようスロープを設け段差のないデザインになっている。

実施年：2002

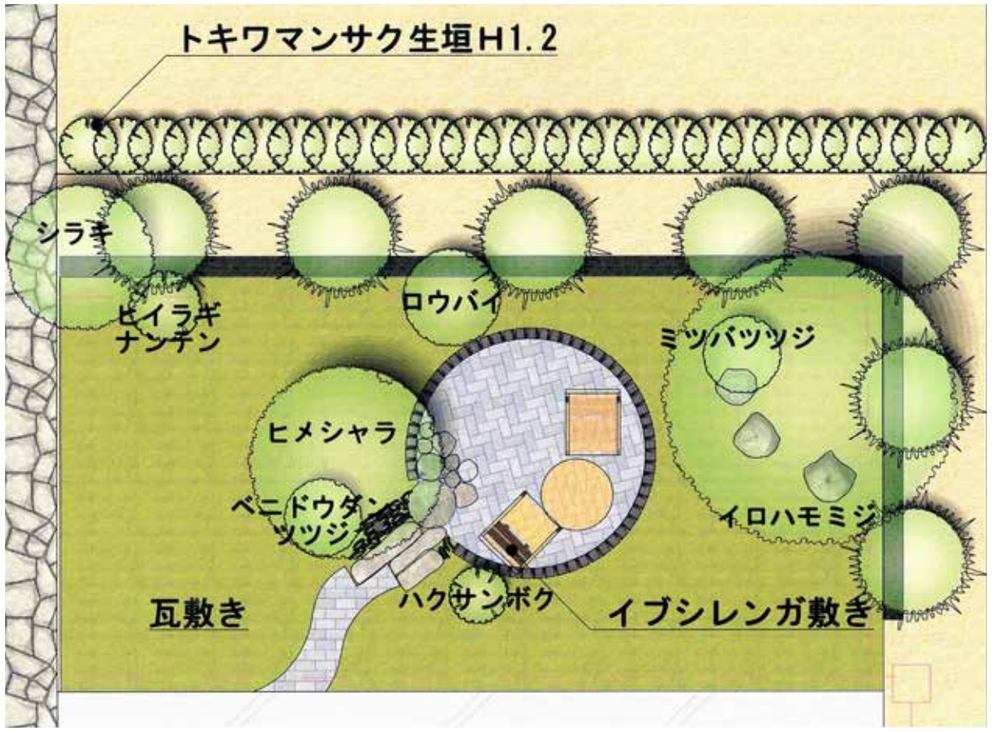
民間：個人宅

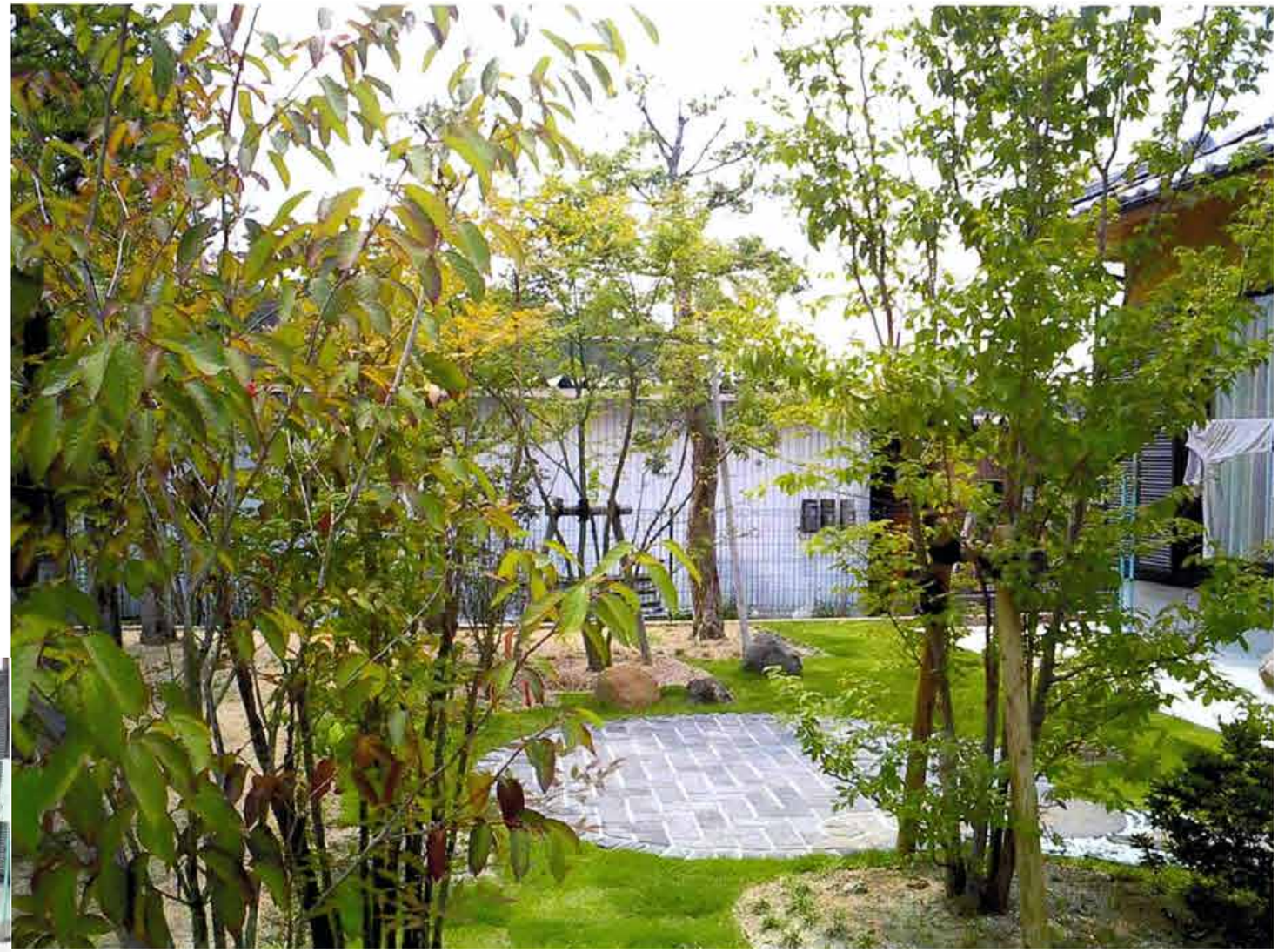
Site：熊本県玉名市個人邸　I　邸　庭園デザイン・設計

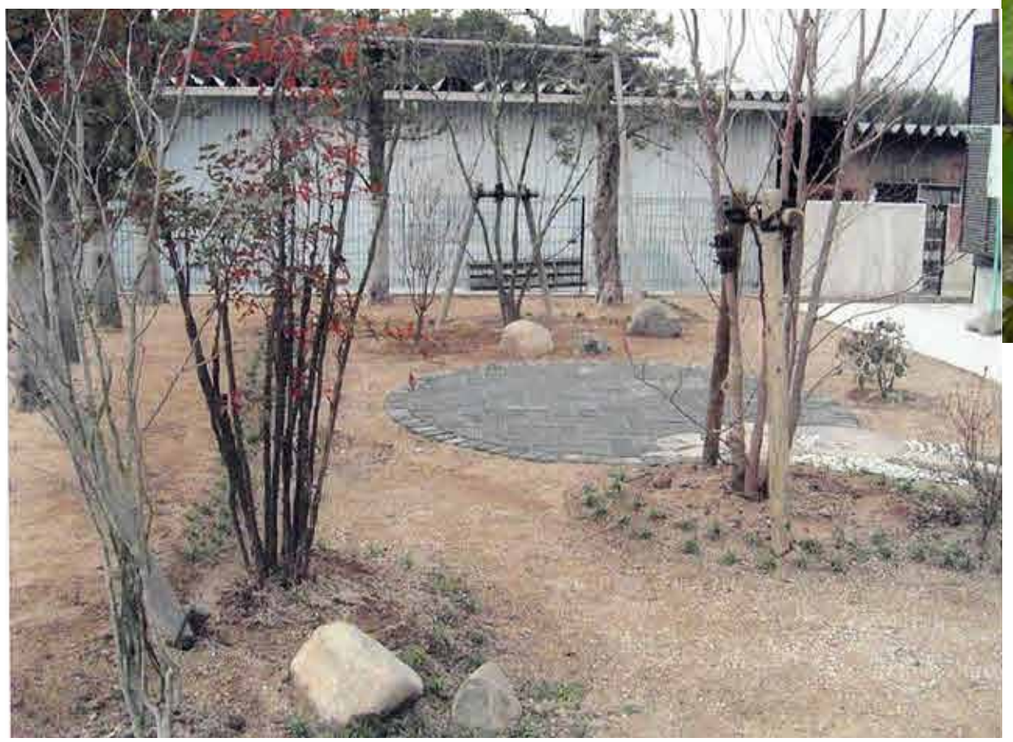
ナチュラルモダンな外構をとのご希望で、建築の色に合わせた黒と赤のレンガのランダム積みで水場とお庭の景観を融合させた。水栓は流木を炭で塗装し輸入の蛇口が口を取り付けた。ロッキー山脈産の自然石と流木を積み重ねた土留めで印象的に仕上げた。

実施年：2002

Site：熊本県玉名市個人邸　U 邸　庭園デザイン・設計







実施年：2001

主要プロジェクト経歴

石川啓吾
安達直子

主要プロジェクト経歴

石川啓吾

プロジェクト名	担当業務	従事期間	発注者
座間谷戸山公園自然環境調査	調査・まとめ	平成13年	神奈川県公園協会
皇居東御苑自然共生型樹林整備に伴う測量設計業務	調査・設計	平成13年	宮内庁
武蔵野女子学院薬用植物園予定地植物調査	調査・まとめ	平成15年	武蔵野女子学院
三浦半島国営公園(仮称)実現化方策検討調査委託	調査・計画検討	平成17年	神奈川県
気仙沼大島園地再整備基本計画における調査・保全計画	調査・計画検討	平成18年	環境省
ケミカルコントロールによる樹木・草地管理手法の確立	調査	平成18年	NEXCO東日本
皇居東御苑自然資源基礎調査業務	調査・まとめ	平成18年	宮内庁
武蔵野市市民フォーラム 企画運営補助	会議運営補佐	平成20年	武蔵野市
成城学園成城池自然環境調査	調査・まとめ	平成21年	成城学園
青山霊園再生修正設計 保存樹木調査計画	調査・まとめ	平成21年	東京都
アファン森の植物調査 （ビオトープ研修講師）	調査・まとめ	平成21年	C.W.ニコル･アファンの森財団
乾徳山林道貴重植物調査	調査・まとめ	平成22年	埼玉県
狭山丘陵自然環境調査		平成22年	山梨県
樹ガーデン（鎌倉） 景観アッププロジェクト	森づくりの調査・ 整備管理	平成23年～現在	民間企業
石和英和幼稚園水辺ビオトープ 設計・監理	調査・計画検討	平成23年	笛吹市
成田国際空港	調査・まとめ	平成23-28年	成田空港株式会社
鳥類実態調査業務			
A滑走路西側防音林 現況調査作業			
防音堤植栽調査等			
代々木公園ほか生物多様性保全管理計画策定業務	調査・計画検討	平成26年	東京都

主要プロジェクト経歴

安達直子

プロジェクト名	担当業務	従事期間	発注者
ジャカルタ ホテルリゾートコンプレックス ランドスケープマスタープラン	ランドスケープデザイナー（英国）	2004.08 -2005.03	民間企業
バンコックタワー ランドスケープマスタープラン	ランドスケープデザイナー（英国）	2005.04- 2005.11	〃
イスラマバード複合開発 ランドスケープマスタープラン	ランドスケープデザイナー（英国）	2005.12-20 06.06	〃
横浜公園改修工事に伴う 実施設計	担当設計者	2009.09- 2010.01	横浜市
ガス山公園基本設計	担当設計者	2009.11-20 10.03	横浜市
池辺市民の森整備に伴う 基本・実施設計	担当設計者	2013.09-20 14.03	横浜市
上海高層マンション ランドスケープデザイン	ランドスケープデザイナー（東京）	2010.09- 2010.12	民間企業
瀋陽市中心部アーバンデザイン ガイドライン	ランドスケープデザイナー（東京）	2011.01-20 11.04	〃
桂台公園再整備のための 実施設計	担当設計者	2014.07- 2015.03	横浜市
北方町防災コミュニティ 広場整備のための実施設計	担当設計者	2015.11-20 16.03	横浜市
大貫谷公園一部施設改良工事のための実施設計	担当設計者	2016.11-20 17.05	横浜市
円海山周辺サイン改修工事 実施設計	担当設計者	2017.01-20 17.03	横浜市
志茂学生寮外構実施設計	担当設計者	0217.04-20 17.05	民間企業
さいたまS邸庭園デザイン	担当設計者	2019.08	個人
世田谷S学園遊休地デザイン	担当設計者	2020.04	学校法人
横浜Rマンション外構改修デザイン	担当設計者	2020.05	民間企業